

# 新婦人しんぶん

## 新日本婦人の会目的

- ☆核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもりまします。
- ☆憲法改悪に反対、軍国主義復活を阻止します。
- ☆生活の向上、女性の権利、子どものしあわせのために力をあわせてまします。
- ☆日本の独立と民主主義、女性の解放をかちとります。
- ☆世界の女性と手をつなぎ、永遠の平和をうちたてまします。

## 今週の紙面

- 2面 女性ニュース
- 3面 平和の波行動/国際宣言
- 4面 筋力アップ/どうする原発/法律相談
- 5面 憲法講座/ホット
- 6面 文化情報/もう一品/母の歴史
- 7面 読者のページ/俳句/性の多様性



兵庫・川西市 藤谷昌子 (83)

新日本婦人の会は国連に認証されたNGOです

## 原水爆禁止2023年世界大会 8月4～8日

# 「核抑止」ではなく「廃絶こそ！」

# 条約を力に行動さらに

舞台を埋めつくした新婦人の次世代会員たち(8日) 長崎閉会総会/ナガサキデー集会



23年世界大会 核兵器のない世界を 2023年8月8日(火) 会場:長崎大学・中部講堂 各国のNGO代表がいっしょに討論。左からアメリカ、ロシア、フィンランド、韓国、日本(8日 フォーラム)

**次世代が受け継ぐ**  
「被爆者の思いを受け継ぎ、核兵器をなくし、平和を守る運動をがんばっていききたい」——8日、ナガサキデー集会で、新婦人千葉支部の小林美子さんが発言。色鮮やかなタペストリーや大きな折り鶴、高校生の原爆の絵を手に、全国から参加した次世代会員が、ステージいっぱい並ぶ姿に、大きな歓声と拍手

「核抑止力」論を肯定したG7広島サミットの「広島ビジョン」を広島・長崎の両市長が批判し、「核抑止」からの脱却を求める声がかつてなく高まる中、原水爆禁止2023年世界大会は8月4日～8日、「被爆者とともに、核兵器のない平和で公正な世界を—人類と地球の未来のために」をテーマに、広島と長崎で開催されました。大会期間中、国際共同行動「平和の波」が各地でとりくまれました。(関連2、3、8面)



長崎平和公園内の平和の泉。正面の石には「のどが渇いてたまりませんでした。水にはあぶらのようなものが一面に浮いていました。どうして水が飲めなく、どうしてあぶらの油は止め飲めませんでした。—あの日のあぶら油の少女 厚子 4才」

新婦人は原水爆禁止世界大会を、次世代会員の「直接体験の場」と位置づけ、約50人が長崎大会

がわきあがりました。「被爆の実相を伝える活動を大事に、高校生が描いた原爆の絵展は、近くの高校にもチラシ配布を申し入れてきました。次世代は、署名やこうした行動の積み重ねが、禁止条約発効の原動力になったことを実感しています。小林さんの力強い発言に、韓国の若い代表十数人が「すばらしい」と二者に立ち上がり、海外代表からも「ストロング！」「パワフル！」と声援が飛びかうなど、大注目でした。

今年の世界大会には、16の国と地域から国連、各国政府、市民社会の代表43人、23団体が参加し、自治体首長や国会議員からもあいさつがありました。オーストリアの政府代表は「核抑止力の理論は、大量破壊兵器を使用し、世界規模の壊滅的結末を伴う被害を与えようという計画と意思に基づいている」と指摘し、メキシコ政府代表も「禁止条約は全面廃絶に向けた画期的な成果。もっと多くの国の署名・批准を」と呼びかけました。(2面へ)

に代表として参加しました。初参加も多く、感想が寄せられています。鹿児島から小・中学生の子と参加した会員は、長崎の平和公園へ。噴水前の碑に刻まれた「のどが渇いた」という手記と一緒に読み「ここで亡くなった人は、こんなに暑いのに水を飲めず亡くなったんだね。核兵器はなくなるんだよ。世界中が使わなければ」と話し合ったといいます。「すごい人数にびっくりした」という東京の会員は、「こんなにもたくさん



東京—広島コースを通し行進した新婦人広島県本部の村上厚子さん(写真中央)をみんなで出迎えた。国際青年リレーも復活。全国から寄せられたペナントのアピール行動も。(4日 平和行進集結集会・広島)

9月23日号は休刊です

